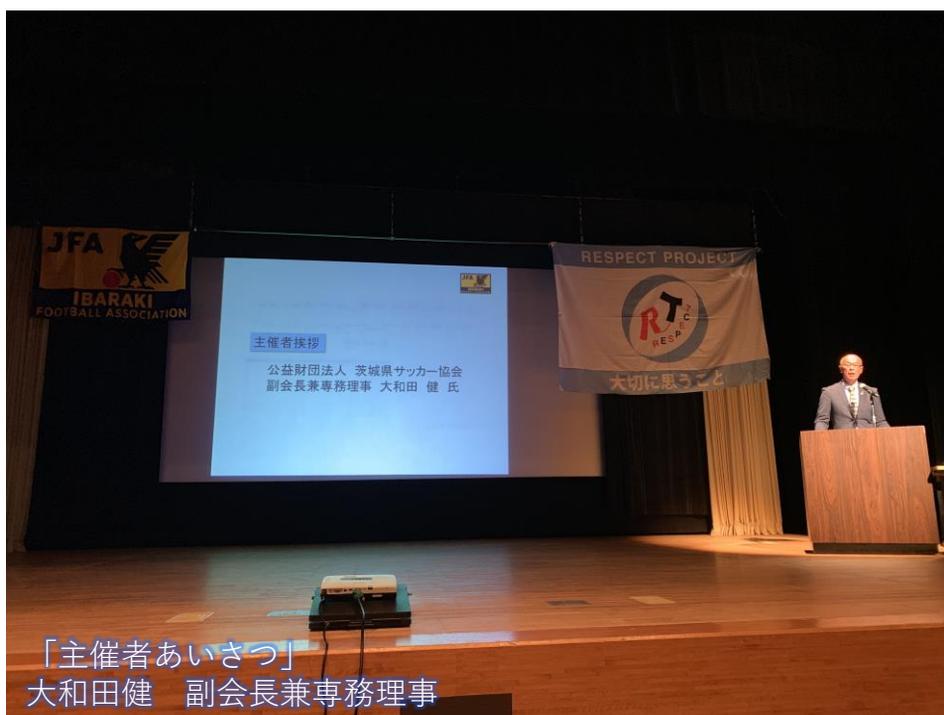


2019暴力・暴言根絶に向けた 「サッカーファミリー安全保護宣言」 研修会【中央地区】開催！！

7月5日（金）ひたちなか市文化会館小ホールにて、『2019暴力・暴言根絶に向けた「サッカーファミリー安全保護宣言」研修会【中央地区】』を実施しました。県内5地区で計6回開催し、茨城県の指導現場における暴力・暴言をゼロにすることを目指しています。

今回の中央地区開催は第1回目となり、これを皮切りに各地区で開催されます。県内で指導に関わる方全員を対象としており、全6回のうちいずれかへの参加をお願いしております。

研修会に参加することで現状を把握し、子供たちのために今一度暴力・暴言根絶について考える機会を持ち、日々の指導現場に生かしていただきたいと考えております。





「暴力・暴言の根絶に向けて」
日本サッカー協会 荒谷潤 技術部長



「これからのサッカー指導」
鹿島アントラーズ 高島雄大 育成部長



「懲罰規程の改正について」
根本清史 規律・フェアプレー委員長



「暴力根絶の宣誓書について」
鈴木純一 事務局長

<参加者の感想>

今回の研修を受講し、あらためて指導者として責任ある立場であることを自覚し、行動・立ち居振る舞いをしなくてはならないと再認識する良い機会となった。選手あっての指導者ということを認識し、サッカーの発展に寄与できるようにしていきたい。

指導者の感情のコントロールはもちろん、受け取り手となる「選手がどう感じるか」についてあらためて考え直す良い機会となった。

自らの言動に「責任、使命」を持ち、発達段階に応じた生徒・児童などの選手の実力を伸ばすような指導をしなければならないと感じました。また、指導を通して私自身が日々成長をしなければならないと思い、明日以降の現場で意識しようと思いました。

子供との信頼関係をしっかりと築く為の一つ一つの言葉に大人としての責任と子供の将来を左右する指導者であるという自覚を持ちたいと思った。

日本サッカー協会 荒谷氏の「日頃の取り組みが正当に認められ、評価される環境をつくるのが目的である」という言葉は大いに共感できた。こうした研修が開かれなければならない現状であることを知り、考えさせられた。鹿島アントラーズ 高島氏のプロの指導者は「選手の想いに応えられる指導者のレベルアップ」を大切にしていることを知り、このような心構えが広まらなければならないと感じた。また、「現代にあった指導法を知る」（一昔前の指導は通用しない時代であることを知る）ことは指導者として必須であると考えた。